

6月定例会の一般質問から

公共交通ネットワークの構築に向け 市民説明に全力で取り組むべき

問

人や環境にやさしい「公共交通ネットワーク」の実現に向けては、市民や交通事業者などの関係機関に対し、本市が目指すまちづくりの考え方や公共交通の姿について、十分な理解と協力を得ることに、全力を挙げて取り組むことが求められている。

このようなことから、市民説明は非常に重要な機会であると考えますが、LRTの是非ばかりが取り上げられ、肝心のまちづくりへの理念や公共交通の重要性などの議論が置き去りにされていると言わざるを得ない。

そこで、今後の市民説明のあり方について、現時点での考え方を伺う。

答

市民説明は、将来のまちづくり

や公共交通に関心をもっていたく良い機会であるが、これまでLRTの事業費などの数字に注目が集まり、まちづくりの理念や公共交通の重要性などの考え方を十分に共有できていない状況にあると考えている。

このことから、まずはまちづくりの考え方や公共交通のあり方などについて、その将来ビジョンを市民と共有することを目標とし、多くのご意見をいただくことができる内容としていきたいと考えている。今後とも、交通事業者などの関係機関との協議・調整を図り、市議会の意見も十分伺いながら市民説明の準備を進めていく。

市民説明は、将来のまちづくり



今後の土地地区画整理事業の考え方は

問

宇都宮東部土地地区画整理事業区域のうち、平松本町第三地区では「地籍整備型土地地区画整理事業」という、これまでになりに区画整理の考え方を取り入れ、今後の市街地整備の有効な手法のひとつになると期待している。

そこで、宇都宮東部未着手地区や小幡・清住地区の早期事業化に向けても、新しい考え方を取り入れた整備手法の検討が必要と考えるが見解を伺う。

本市の土地地区画整理事業は、市街地の基盤整備に最も有効な手法として、重要な役割を果たしてきた。

一方、長期間未着手となっている地区は、住宅密集や宅地の細分化などにより、権利者の合意形成に多くの時



間を要する状況にある。これまでの既成概念にとらわれない、「柔らかい区画整理」の整備手法の運用を提唱しており、今年度の事業化を予定している平松本町第三地区は、既存道路を極力活用する「地籍整備型」をいち早く取り入れた地区であり、今後の既成市街地整備のひとつのモデルになると考える。

築瀬町や平松本町などの東部未着手地区や、小幡・清住地区の整備については、地区の実情を踏まえ、「柔らかい区画整理」などの考え方も取り入れながら、早期の事業化に向け引き続き取り組みでいく。

間を要する状況にある。これまでの既成概念にとらわれない、「柔らかい区画整理」の整備手法の運用を提唱しており、今年度の事業化を予定している平松本町第三地区は、既存道路を極力活用する「地籍整備型」をいち早く取り入れた地区であり、今後の既成市街地整備のひとつのモデルになると考える。

口蹄疫感染防止に向け 万全の危機管理体制を

問

宮崎県では口蹄疫のため非常事態宣言がなされ、懸命な感染拡大防止策が取られているが、感染力は極めて強く残念ながら感染拡大が止まらない状況にある。そこで次の点について伺う。

- ①市内での感染防止のための取り組みと今後の対策は。
- ②県が策定した「口蹄疫初動対応マニュアル」の概要は。
- ③万全な危機管理体制を作っておく必要があると考えるが見解は。

①現在、県と市町や農協などの関係機関が連携し、畜産農家に対し家畜の健康観察や衛生管理の徹底を呼びかけ、消毒薬の配布などを行っている。市でも市内の牛・豚の畜産農家全戸に対し、消毒のため

の「消石灰」の配布や車両等の消毒の徹底など未然防止の重要性について文書により周知を行った。

今後も、感染状況等の情報収集や各農家の防疫状況を継続的に把握し、畜産農家に対して防疫対策の徹底を図るよう指導する。

②県を主体とした広域的な危機管理体制や、家畜の移動規制などの具体的な措置、さらに、関係市町における人員・資材の確保や消毒ポイントの設置・運営などの役割を明らかにしたものである。

③庁内関係各課の役割の整理など調整を進めており、本市の畜産はもとより、市民生活を口蹄疫から守れるよう万全を期する。

注釈

口蹄疫は人には感染しません。感染肉等は市場に流通することはなく、仮に摂取しても人体に影響はありません。